

■**谷干城** 陸軍軍人、政治家。維新後の内乱鎮圧に貢献するも山県有朋と対立、独自の立場から一貫して政府批判。

たにかんじょう

**大塩平八郎乱**1837= 土佐国窪川村で、無禄のため武芸・学問の教授と医業で生計を立てる家に生まれる。儒者谷秦山の末。

のち、父が藩の教授館御用を命じられて高知城下に移住、

**阿部正弘首座**1845= 8歳 :

孝明天皇・・・1846= 9歳 :

**ペリー来航**・1853=16歳 :

**安政大地震**・1855=18歳 :

松下村塾・・・1856=19歳 : 江戸に出て、安積良斎・塩谷宕陰、さらに安井息軒に学ぶ。

帰藩して藩校の助教となったが、

**桜田門外変**・1860=23歳 :

武市瑞山の影響で尊皇攘夷運動に加わるものの、急進派とは一線を画して公武合体論を唱え、

禁門の変・・・1864=27歳 :

薩長同盟・・・1866=29歳 :

藩命により長崎・上海に出張し、後藤象二郎・坂本竜馬と接触して影響を受け、

**大政奉還**・・・1867=30歳 :

西郷隆盛ら薩摩藩士と会談して薩土連携に尽力、

**明治維新**・・・1868=31歳 :

戊辰戦争には土佐藩軍監とし東北に転戦。

戦後、藩少参事となって藩制改革に貢献、

廃藩置県・・・1871=34歳 :

\*新政府に出仕して陸軍に入り、兵部権大丞、

学問のすすめ1872=35歳 :

陸軍少将、陸軍裁判所長、

**明治6年政変** 1873=36歳 :

熊本鎮台司令官となる。

佐賀の乱・・・1874=37歳 :

佐賀の乱を鎮圧し、また台湾出兵に参軍として出陣。

三つの反乱・1876=39歳 :

神風連の乱で殺害された種田政明の後任として熊本鎮台司令官に復し、同乱を鎮圧、

**西南戦争**・・・1877=40歳 :

統いて西南戦争が勃発すると、包囲された熊本城を死守、鹿兒島追撃にも加わって官軍勝利をもたらす。

大久保暗殺・1878=41歳 :

中将に進み東部監軍部長、

・・・1880=43歳 :

陸軍士官学校長。この間、三浦梧楼、鳥尾小弥太、曾我祐準らと反主流派を形成するようになり、

**明治14年政変**1881=44歳 :

\*監軍部長となった年、彼らと月曜会を組織し、国憲創立・議会開設を建白して軍主流派の山県有朋と対立して陸軍を去る。

新体詩抄・・・1882=45歳 :

秩父事件・・・1884=47歳 :

宮内省出仕で学習院院長に任じられる。子爵。

内閣発足・・・1885=48歳 :

第1次伊藤博文内閣で唯一の土佐出身者として農商務大臣になったが、

帝国大学始・1886=49歳 :

欧米諸国を視察して、

国民之友始・1887=50歳 :

帰国すると、井上馨外相の条約改正案と欧化主義に反対して辞職。

初の対等条約1888=51歳 :

再び学習院院長となる。

**帝国憲法発布**1889=52歳 :

陸軍予備役に編入。政教社グループとともに{日本}を中心に国権主義者の結集を図り、大隈条約改正案にも反対運動、さらに{日本倶楽部}設立に参加、

帝国議会始・1890=53歳 :

\*互選により貴族院の子爵議員となると、対外強硬派のリーダーとして活躍、

足尾鉾毒始・1891=54歳 :

大本教・・・1892=55歳 :

鉄道会議議員として広軌改築案を主張、

郡司千島探検1893=56歳 :

第五議会で官紀振粛問題で政府を追及、

**日清戦争始**・1894=57歳 :

**日清戦争終**・1895=58歳 :

三国干渉問題で政府を追及、

八幡製鉄始・1897=60歳 :

軍備に関する上奏案(軍事費偏重を批判)を提出するも否決される。

子規句歌革新1898=61歳 :

山県内閣の地租増徴案には農本主義の立場から貴族院の同志と反対同盟をつくり、12000余人を集めて反対大会を開く。

ピアノ国産化・1900=63歳 :

東京市公民大会を開催、政友会の市政蹂躪・事務素乱を糾明。

教科書疑獄・1902=65歳 :

日本弘道会会長。桂太郎内閣の地租増徴案には曾我らと農民保護を主張して強硬に反対した。

**日露戦争始**・1904=67歳 :

日露開戦にも親露排英主義の立場から批判的立場をとるなど、反政府的活動を全うし、

**日露戦争終**・1905=68歳 :

満鉄発足・・・1906=69歳 :

\*陸軍中將で退役、

**伊藤博文暗殺**1909=72歳 :

大逆事件判決1911=74歳 :

旭日桐花大綬章を授けられ、正二位に叙せられて、没した。